

	<p>2011年5月15日 第84号</p> <p>発行：いたばし水と緑の会 事務局</p> <p>年会費 2,000 円 郵便振替 00170-8-352508 いたばし水と緑の会 http://homepage3.nifty.com/mizutomidorinokai/ E-mail : mizumidori@nifty.com 〒174-0063 板橋区前野町 5-31-7 瀬田方 tel&fax3969-7124</p>
---	---

蓮根川(本流)を歩く - 水源から流末まで -

4月10日(日)天候に恵まれ、事務局の瀬田さんや坂本さん、釣巻さん、会員の方達と蓮根川の跡を歩いた。集合場所の西台公園は現在改修工事中で「みずみどり」83号に坂本さんが紹介されているとおり、樹林地は荒れ果て無惨な状態である。この工事によって更に自然が失われることは明白であろう。



昭和38年11月。蓮根川の広い原っぱで遊んだ息子達。うしろの高台は西台1丁目(旧志村高校あたり)

今回は旧若葉小学校先の水源といわれる地点(若木2丁目)から出発した。大正の頃、雑木山に囲まれた農家に湧水の池があって日常使われていた。この水が低地に流れ、中台・西台の台地からの水も集まり細い流れとなっていた。当時は雑木山の裾も湧水で濡れていて川にはサワガニやカエル、フナやドジョウなどが生息子ども達のよい遊び場だったという。現在は集合住宅や民家が建ち並び昔の面影はない。舗装された細い川の跡を辿って西台公園に戻り、環状8号線沿いの歩道を北進すると、傍らの空き地に枯れたジュズダマが残っていた。環8の工事が始まる前はジュズダマが沢山生えており、ムカゴ、ヨモギなども摘んで食べた。現在、蓮根川の上流部は環8の下に埋没し、高速5号線下の交差点のあたり(天狗橋跡)で左折すると、暗渠の上に公園緑地化された蓮根川緑道が現れる。

蓮根川は相生町、坂下、東坂下へと二度左折し東坂下で新河岸川に注いでいるが、途中、志村坂下小学校と芝浦工大附属高・中学校では緑道が校庭に取り込まれている。上流部の地元の



蓮根川旧水路（昭和60年）
表紙の写真と同じ場所で、
上流から北（高速5号線）に
向かって撮影。現在は環8
の下にあたる。

（昭和61年12月発行
文化財シリーズ「いたばし
の河川」より）

古者は「どぶっ川」と言っており、川の名は工事の際に付けられたようである。昭和初期、稲作が盛んな頃は相盛橋（あいせいばし）のあたりに稲付場（いなつけば）と呼ぶ広場を設け、稲を牛車に積むため共同で使用したという。以前は相盛橋の上流、下流とも満開の桜が緑道に花のトンネルを造っていたが、兩岸の開発が進んで高層の建物が迫り、緑道のサクラは半身を伐られたような姿を見せて、花も少なくなっている。

この先の緑道の一部には遊具が設置されているが樹木は疎らで、用途不明なコンクリートの広場があり、「これは？」と首を傾げながら通り過ぎた。東西に延びる志村坂下通りや高島通りを横断して中山道に架かる陸橋を渡ると、区立公園として整備された「蓮根川緑道」の入口にあたり、満開の桜が枝を広げていた。



左：中山道歩道橋から見た蓮根川緑道の上流側（坂下3丁目）、右：歩道橋を渡ると桜並木の「蓮根川緑道」（東坂下2丁目）が続く。

昭和60年頃河川調査のため地元の古者に聞いた話では「ここいらの歴史はそのまま水害の歴史ですよ」と語られた程の水害多発地帯だった。その上、戦前から戦後まで軍や区の政策として工場を誘致した結果、大量の地下水汲み上げによる地盤沈下が起き、大雨と満潮時が重なると新

河岸川の水が蓮根川に逆流して新たな水害をもたらしたという。しかし、古老の少年時代には川の段差を利用して梁（やな）をかけ、夕立が来る前に梁を上流に向けておくと逆流した水が川下に向かう時、コイ、フナ、ウナギの子、ドジョウ、ハゼ、カエルなどがびっしり詰まって窒息しているものもあったという。昭和46年以降、区は地下水の汲み上げを強く規制して地盤沈下は収まり、排水場も整備されて水害は殆ど起きなくなった。地元の人々の長年の悲願が実って立派な緑道公園が完成したのは昭和50年代の後半だったという。

満開の桜並木の下を散策し、公園の東端の小さな坂を登ると新河岸橋に出る。近年の大掛かりな工事によって拡幅・直線化され、橋の向こうは北区浮間である。十数年前、寒い季節にこの辺りを歩いた時には欄干の高い所にユリカモメがびっしり並んでいた。また、カワウの大群が一斉に新河岸川に着水するのを目撃したこともある。蓮根川(本流)の水源から流末まで約3km。

さて、蓮根川緑道はいささか殺風景だったので、中山道を南進すると程近い出井川緑道を歩いて帰路に着くことにした。出井川緑道は早期に整備されたので緑豊かな公園緑地になっている。桜、椿、藤などの他、低木や花も沢山植えられている。歩道は幅1mほどで、樹木や花壇の配置によってカーブしているので自転車で走り抜けるのはむずかしい安全な散歩道になっている。

この緑道沿いの志村公園に御成塚（おなりづか）があり、拳形に盛土して造られたので栄螺塚（さざえづか）とも呼ばれた。

江戸時代、将軍が鷹狩りに来てこの塚の上から志村の原を見渡したという。昭和50年代に見たときはもっと高かったと思う。高層建築や住宅が密集して目立たなくなってしまったが、志村3丁目駅から北に向かう区道に「御成塚通り」の愛称がついている。御成塚から志村3丁目駅はすぐそこ、12時半駅前解散した。

なお、蓮根川支流は蓮根2,3丁目を水源として、東坂下で本流に合流、公園緑地として整備され地図には蓮根川緑道と表示されている(泉貞代)。

物言わぬ松たち

東日本大震災では、故郷の見慣れた風景が一瞬にして消え、まさに無常を感じています。被災された皆様にお見舞い申し上げますとともに、早期の復興を念じてやみません。

先日、八戸市市川周辺の防潮林を見て参りました。

この地域の津波の高さは、6.2mと報道されています。防潮林の樹種は、ほぼ黒松です。一部に倒伏した防潮林は効果が無いと見る向きがあります。防潮林の効果は、津波の規模によっては、評価が難しいと考えますが、八戸市にある防潮林では、今回の津波に一定の効果が認められますのでご報告申し上げます。

1960(昭和35年)に発生したチリ地震津波では、陸前高田市の高田松原は、横枝が張っている若い松多く、この津波に耐えています。ところが、今回は津波の規模が大きく壊滅状態となっています。

今回、八戸市市川においては、横枝が張っている若い松（＝形状比が低い）は被害が少ない状況が認められます。（写真）写真はフェンスを倒した漂流物を松が止めている写真です。

防潮林については、根張りを発達させて倒伏しないように松の本数を少なめに仕立てるのか、それともゴミや砂が進入しないよう松の本数を多めに仕立てるのか判断が難しいところです。松林は、樹冠が薄く林床に日が当たって植物が繁茂しやすいのが特徴です。個人的には、松の本数を少なめにして、根張りや林床の植物を発達させて倒伏防止とゴミや砂の進入防止双方のバランスを取るのがよろしいかと考えます。

防潮林の松は、海水を被り、表土が海砂に覆われ、既に塩分によって、葉に黄変症状が生じています。この状況は、経過観察することとします。

写真は同じ箇所を撮影したものです。一部損壊があるものの、防潮林によって、住宅が守られています。

注目は写真です。住宅と住宅の間に通路のような空間があります。その先は海です。



上：写真、下：写真



写真



写真



この空間を通過して、津波が進入したために手前のフェンスは折れ曲がっています。住宅被害は防潮林の無い箇所（写真 ）や道路に沿って、多く見受けられます（写真 、ゴミと砂も見てください）。通路や道を設置し、防潮林が盾となるよう津波が進入する角度を考慮して行う必要があるようです。

上：写真 下：写真



写真 : 黒松を倒し、広葉樹を根こそぎ引き抜いた津波

写真 : 林内に堆積した砂

写真 : 車と船を止めています。これが住宅に衝突すれば全壊となります。

写真 : 倒れた松も多くありますが、漂流物を止める効果は十分に認められます。

以上から、防潮林の役目は、漂流物と波による衝撃の緩和、ゴミや砂などの進入防止と考えます。

人間生活を守る盾となって、これらの役目を果たして倒伏した物言わぬ松たちに合掌です。

（一条 克也）

注:形状比 = 樹高(cm) ÷ 胸高直径(cm)、この値が70以上になると自然災害を受け易いとされている。



写真



写真



写真



写真

素敵な活動ですね……こんなメールをいただきました

いたばし水と緑の会さん。

本日たまたま「ガガイモ」の種子の写真をネットで探していて、篠原さんの2004年の記事を読ませていただき、そこから「いたばし水と緑の会」のHPに入り込みました。

HPや機関誌を読ませて頂いて、いろいろな活動がとても魅力的に展開されているように感じました。広報内容も分かりやすく、親しみやすく工夫されていることを強く印象付けられました。自分たちの住んでいる地域にこんな自然があるんだよといったメッセージがスムーズに飛び込んで来ているように感じました。

勿論かなりの専門的知識や厚い調査の結果がベースになっているものと思われませんが、それをあんまり（少しはありますが）感じさせずに、読む人たちを引っ張りこもうとしている体裁が素晴らしいと思いました。

近くにはおりませず直接的な参加はできませんが、活動の長続きとますますの地域とのつながりの活発化を応援したいと思いました。少しだけですが、私も地域で同じような活動ができればなと思いました次第。勿論多くの人たちの協力が必要なのでしょうが。

私設応援団 高山(横浜市在住)

活動・観察記録(3月～4月)

3月5日(土) 6日(日) 赤塚梅まつりに出展

3月19日(土) バッタ広場ササ刈(伐採後の点検、落ち葉の下にやはりササはあった) キチョウ、赤塚トンボ池(正確には向かいの梅林)に来るマヒワの写真を見せてもらった。エナガが池の端にあるスダジイで営巣しているらしいとのこと。

4月2日(土) 成増4丁目緑地と隣接樹林地の林縁植物観察、キボシカミキリ死骸

4月10日(日) 旧蓮根川観察会(講師: 泉 貞代)

4月16日(土) 赤塚トンボ池調査

湧水流入少なく、油膜(プランクトン)あり。堆積ヘドロ多い。オタマジャクシ多数健在。ヨシノボリ、スジエビ、甲虫、ザリガニ8匹、稚ザリガニ1匹(ザリガニの爪2)(ザリガニは非常に少ない。従って人の立ち入った形跡もなし)アゲハチョウ吸水。

4月23日(土) 雨天のためバッタ広場の観察のみ。エノキ切り株からひこばえ

トンボ池のカワセミが人気



2月26日、トンボ池に来るカワセミを見る人たち。

池に置いた観察日記には、「カワセミなど見たことがない。だから見たい(小学校6年生、3月21日)」という書き込みがあったりして、注目されています。

活動のお知らせ

6月の運営委員会：6月25日(土) 12:30～13:30

作業・観察会の後に赤塚ため池公園そばのラーメン「しらかば」で行い、報告や活動内容などを相談します。午前中の作業の状況で時間が多少ずれることがあります。

雨天で作業が中止の場合も運営委員会は開きます。

連絡先；坂本(090-4618-1295)

会報の発送は奇数月。お手伝いできる方はよろしく

日時：7月16日(土) 12:30～

活動の問い合わせは事務局 瀬田(3969-7124)まで

総会 5月28日(土) 13:30～15:30

場所：高島平5丁目第2公園内集会所(高島平5-24)

西高島平駅前の緑地帯を背にして、大宮バイパスの1本西台よりの道路に入り、まっすぐに行って左側の公園です。わからない場合は坂本まで(090-4618-1295)

赤塚ピオトープの観察と環境整備(毎月第4土曜日)(雨天の場合は観察とゴミ拾い)

軍手、タオルなど、汚れてもよい服装で。カメラ、ルーペ、双眼鏡、図鑑もあるとよい。

6月25日(土) 10:00～12:00 バッタ広場ササ刈と現状観察

7月23日(土) 10:00～12:00 バッタ広場ササ刈と現状観察

集合場所：赤塚トンボ池(板橋美術館そば)

日暮台公園樹林地観察会(第1土曜日)(樹林地内の植生と推移を観察します)

6月4日(土) 7月2日(土) 10:00 日暮台公園前集合

観察会「生き物にとってのバッタ広場」(講師：釣巻岳人)

5月28日(土) 10:00～12:00 美術館横トンボ池前集合

観察会「和光市白子の湧き水の自然を守るために」(講師：白子川と流域の水環境を良くする会) 6月18日(土) 9:40 東上線成増駅改札口集合

観察会「ピオトープと管理(バッタ広場を中心に)(講師：水研クリエイト(株)尾坂尚之)

7月16日(土) 10:00～12:00 美術館横トンボ池前集合

あなたも会員になってください(年会費2000円：振込先は表紙に記載)

いたばし水と緑の会の活動はすべて会員の会費によってまかなわれています。主な用途は、会報郵送料、印刷費、ピオトープ維持管理のための資材費、コピー代などです。